



21世紀を翔る 医療スペシャリスト

The University of Osaka, Graduate School of Medicine, Division of Health Sciences

大阪大学医学部保健学科
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

2027

保健学のすすめ



保健学科長/保健学専攻長
尾路 祐介

大阪大学医学部保健学科は、看護学・放射線技術科学・検査技術科学の3専攻から構成され、高度医療を支える専門職の育成と、疾病予防・健康増進を通じた保健学の発展という二つの使命のもと発展を続けています。医療専門職としての教育に加え、保健・医療・研究・産業界へ広がる多様なキャリアパスが開かれていることも特徴です。本学科が重視する「リサーチマインド」は、変化の激しい医療・保健分野で課題を見だし、科学的に思考し、解決へ導く力を育むものです。そのため、医学、看護学、放射線技術科学、検査技術科学、工学、薬学、理学など多様な専門領域の教員が連携し、教育と研究を推進しています。また、保健分野の社会課題が複雑化する現代においては、他分野との融合が不可欠です。日本最大規模の国立総合大学である大阪大学は、11学部・15研究科をはじめとする豊富な学術資源を備え、保健学を学び、実践し、社会課題の解決に挑むための最適な環境を提供しています。

大学院医学系研究科保健学専攻には、博士前期課程(修士)と博士後期課程(博士)が設置されており、基幹プログラムに加えて保健師教育、助産師教育、がんプロフェッショナル養成プラン、遺伝カウンセリング、高度医学物理士養成、臨床工学技士指導者育成、ナースプラクティショナー養成など多様な実践的な専門コースを展開しています。これらのプログラムは、医療・研究・教育の各分野で活躍できる高度専門職の育成を目的とし、専門性とリサーチマインドを兼ね備えた人材の育成に力を注いでいます。

本専攻は国際的な教育・研究活動にも積極的に取り組んでいます。北米・欧州・アジアの12か国17大学と学術協定を締結し、留学、共同研究、オンライン交流など多様な形で国際的な学びの機会を提供しています。こうした環境の中で、学生は世界の保健医療の現場に触れ、広い視野を育むことができます。

沿革

- 1838年(天保 9年) 緒方洪庵によって、大阪大学医学部の源流となる適塾が設立
- 1875年(明治 8年) 大阪府病院にて蘭医エルメレンスによる産婆学の教授開始
- 1893年(明治26年) 大阪医学所の設立、助産師教育が始動
- 1898年(明治31年) 附属看護養成所が開設、看護師教育が始動
- 1967年(昭和42年) 保健学科の前身である大阪大学医療技術短期大学部が開学、看護科・診療放射線技術科・衛生技術科の3科を整備
- 1993年(平成 5年) 看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻からなる4年課程の医学部保健学科が創設
- 1998年(平成10年) 大阪大学大学院医学系研究科博士前期(修士)課程の設置
- 2000年(平成12年) 大阪大学大学院医学系研究科博士後期(博士)課程の設置





大阪大学医学部保健学科の特色

1. 高度医療専門職育成のトップランナー

日本は今、これまでどの国も経験しなかった超高齢社会を迎えています。また疾病構造は急性疾患から生活習慣病を中心とする慢性疾患へと大きく変化してきました。従来のように疾患の治療だけを対象とする時代は終わり、今、疾病の予防、健康の維持・増進をも推進できる医療専門職が求められてきています。また超高齢化・少子化による財政の逼迫は、限られた医療資源の中で、高度で複雑化した医療を安全・安心に効率よく行うことを求めています。そのためには、高度な看護・医療技術の専門職の育成が必要です。大阪大学は、日本で最初に、看護・医療技術の専門職を育成する3年制の医療技術短期大学部を設置し、さらに短期大学部を改組して4年制の医学部保健学科を開設しました。そして、1998年には大学院医学系研究科保健学専攻を、そして2003年には大学院重点化を行って講座を再編し、高度医療専門職育成のための教育・研究システムを整えました。

2. 高い医療・生命科学分野の教育・研究レベル

大阪大学は、遠く大阪の学塾である懐徳堂と適塾を源に、大阪町人の実証の精神、開放的な気風、しかも高度な思索を尊ぶ志を継承しています。そして「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、地域に根ざした高度な教育・研究活動を推進してきています。中でも日本の医学教育の源である適塾の流れを汲むライフサイエンスの研究分野においては、大阪大学は世界のトップレベルにあり、大学のある千里丘陵は国立循環器病研究センターとともにこの分野のメッカとして発展してきました。さらに近隣に位置する彩都(国際文化公園都市)には、医薬基盤研究所などの研究施設を有し周辺一帯を合わせて、医療・生命科学分野の一大研究拠点として一層の飛躍が期待されています。

3. 新しい学際領域を担う多彩な人材と意欲ある学生

医学部保健学科では、大阪大学の豊かな医療・生命科学分野の教育・研究環境と資産を活かし、21世紀の保健・医療・福祉を担う優秀な人材を育成するため、医学・看護学・工学・薬学・理学などの様々な領域から集まった教員が、新しい学際領域である保健学という学問の教育・研究基盤を築こうと意欲に燃えて奮闘努力しています。そして、学生にも既存の知識を学習するだけでなく、これから大きく発展するこの新しい分野を自ら切り開いてみようという進取の気概を持った人材が集まってくれることを大いに期待しています。また、国際的にも医療技術協力が我が国に強く求められていますが、このような要望に応えるため、発展途上国の若い医療技術者を迎え入れ、大学・大学院で十分に教育し研究できるようにする留学生のための制度も整えています。

4. 21世紀の健康社会を担う指導的人材の育成

この新しい保健学(看護学・放射線技術科学・検査技術科学)の分野では、指導的立場に立つ教育者・研究者が少なく、多数の人材育成が求められています。特にこの分野のトップランナーである大阪大学には大きな期待が寄せられており、多くの学生が大学院博士前期(修士)・後期(博士)課程に進学して、新たな学問分野の開拓に向けて日々研究に励んでいます。そして、大阪大学医学部保健学科・大学院医学系研究科保健学専攻から巣立った人材には、それぞれの学問分野の確立を通じて、後に続く人材の育成に携わることも強く期待されています。

保健学科の構成および進路

看護学専攻

基礎看護学/母性看護学・助産学/小児看護学/成人看護学(急性期・緩和ケア学,周手術期管理学)/
成人看護学(慢性期)/老年看護学/精神保健看護学/地域・在宅看護学



看護学は、個人や集団の健康を保持・増進し、病気の予防をするとともに、人々が人間としての尊厳を大切にしながら病気の回復に向けて日々の生活を送れるよう支援する、医学的な側面から人々の生活全体に関わる基本的な学問分野です。看護学を科学として追求し、高度な看護専門職としてリーダーシップが取れる人材、看護学を発展させる研究・教育者の養成を目指しています。

※看護学専攻では単位取得によって、養護教諭一種免許状の資格を申請することが可能です。

入学定員

80人

取得学位

学士
(看護学)

国家試験受験資格

看護師

放射線技術科学専攻

医用物理学／医用工学



医療の場で放射線を使って、画像情報を得たり、治療に役立てたりする際の技術科学を学ぶところです。X線の他、光、電磁波、超音波などを扱い、それらと生体との相互作用と、医療に適用する生体医用工学の最新技術を学びます。放射線技術科学専攻では、幅広い知識と視野をもつ医療技術者、研究者の育成を目指しています。最新の医療機器、技術の開発には、人体について深く洞察することのみならず、人工知能AIや放射線情報科学など新しいテクノロジーの理解がますます重要になってきます。人体や保健・医療に深い興味をもち、新しい医療技術科学の推進に積極的に取り組む意欲のある人を求めています。

入学定員

40人

取得学位

学士
(保健衛生学)

国家試験受験資格

診療放射線技師

検査技術科学専攻

基礎生体情報学／病態生体情報学



検査技術科学専攻では、人が発する無尽蔵の信号の中から病気の診断と治療に役立つ情報を正確に採取する理論と技術についての研究・教育が行われています。

近年検査技術は自動化学分析、DNA(遺伝子)診断、超音波検査、MRI(核磁気共鳴)検査など、その発展は目を見張るばかりです。

このような技術革新を可能にし、さらに新しい検査技術を生み出す源は、実は自然科学そのものの中にあります。

入学定員

40人

取得学位

学士
(保健衛生学)

国家試験受験資格

臨床検査技師

卒業生の進路(学部・博士前期(修士)課程)

病院・保健所

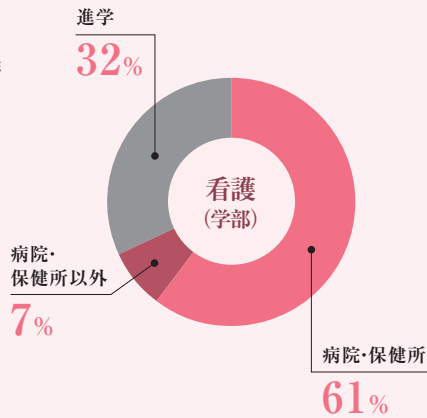
大阪大学医学部附属病院
横浜栄共済病院
財団法人癌研究会明病院
総合病院聖隷浜松病院
医療法人友誼会友誼会総合病院
石切生喜病院
SBCメディカルグループ

病院・保健所以外

北陸銀行
小野薬品工業
テルモ
日鉄興和不動産
リイ
亀岡市立小学校(養護教諭)

進学

大阪大学大学院
大阪公立大学大学院
奈良県立医科大学大学院
東邦大学大学院
教習市立看護大学
兵庫県立総合衛生学院



病院・保健所

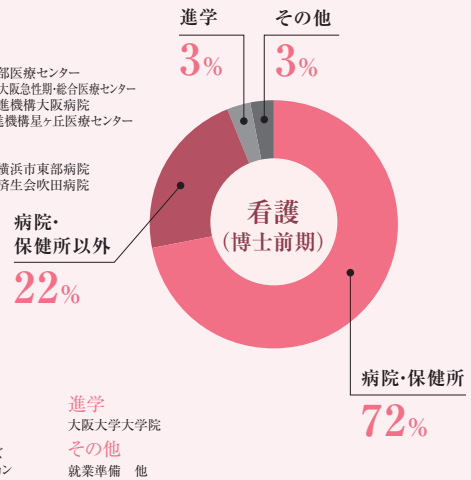
大阪大学医学部附属病院
国立循環器病研究センター
国立成育医療研究センター
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター
独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院
独立行政法人地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センター
公益財団法人浅香山病院
社会医療法人愛仁会
社会福祉法人恩賜財団済生会横浜支部東部病院
社会福祉法人恩賜財団済生会吹田病院
医療法人香華会

病院・保健所以外

大阪府保健所
大阪市保健所
枚方市保健所
堺市保健所
京都市保健所
神戸市保健所
奈良市保健所
広島市保健所
テルモ
スーパードット
NTTドコモ
ニプロ
デロイトトーマツコンサルティング
パーソルエクセルHRパートナーズ
メリーハビリティ訪問看護ステーション

進学

大阪大学大学院
就職準備 他



卒業生の進路(学部・博士前期(修士)課程)

病院・保健所

大阪大学医学部附属病院
国立研究開発法人国立循環器病研究センター
吹田徳洲会病院
医療法人仁泉会MIクリニック

病院・保健所以外

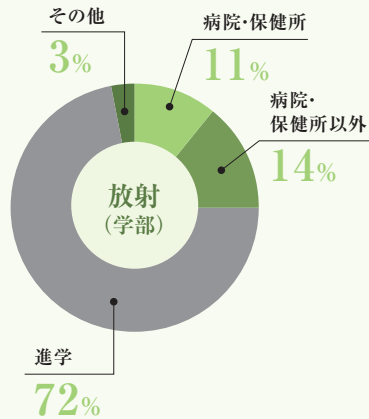
東京都庁
島津トラステック
フリップス・ジャパン
富士フイルム
日本航空

進学

大阪大学大学院

その他

就職準備



病院・保健所

大阪公立大学医学部附属病院
兵庫県立尼崎総合医療センター
医療法人徳洲会和泉市立総合医療センター

病院・保健所以外

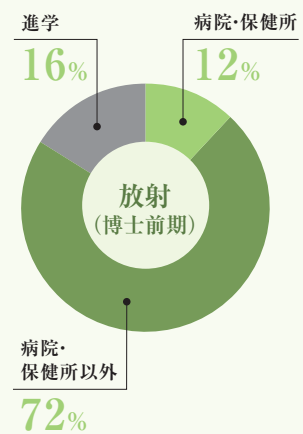
日鉄ソリューションズ関西
スプリックス
関西電力
塩野義製薬
アビコムコンサルティング
三菱UFJリサーチ&コンサルティング
日立製作所
島津製作所
コニカミノルタ
日本メトロニクス
エイツーヘルスケア(伊藤忠グループ)
NTTデータ
ワコール
富士フイルム

進学

大阪大学大学院
神戸大学医学部

その他

就職準備 他



卒業生の進路(学部・博士前期(修士)課程)

病院・保健所

石川県立中央病院

病院・保健所以外

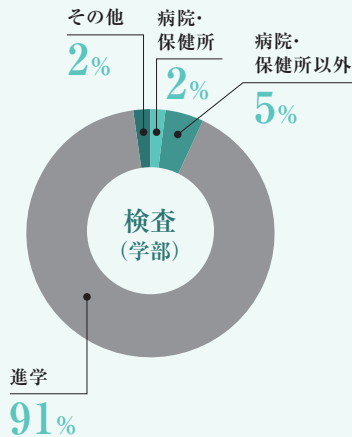
日本アイ・ビー・エムデジタルサービス
鈴与シンワート

進学

大阪大学大学院
滋賀医科大学

その他

就職準備 他



病院・保健所

大阪大学医学部附属病院
東京大学医学部附属病院
京都大学医学部附属病院
兵庫県立病院局
地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪急性期・総合医療センター
学校法人聖マリアンナ医科大学病院

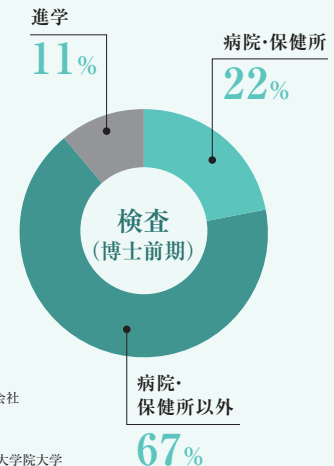
病院・保健所以外

一般財団法人阪大微生物病研究会
富士通
イービーエス
JSOL
テルモ
協和キリン
コベルコシステム
旭化成ファーマ
ニプロファーマ
千寿製薬
アステラス製薬
アステラス製薬
アストラゼネカ
シスメックス
小野薬品工業
ビー・エム・エル
キーエンスソフトウェア
アークレイ
H.U.グループホールディングス

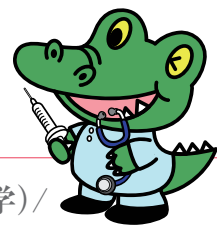
アサヒグループ食品
日本生命保険相互会社

進学

大阪大学大学院
奈良先端科学技術大学院大学



看護学専攻



基礎看護学/母性看護学・助産学/小児看護学/成人看護学(急性期・緩和ケア学,周手術期管理学)/
成人看護学(慢性期)/老年看護学/精神保健看護学/地域・在宅看護学



人を多面的に理解するところから看護は始まります

看護は個人や集団の健康の維持・増進・回復を目的にし、人々がよりよく生きる可能性を最大限に発揮できるよう援助するものです。それには、看護の対象である個人・家族や集団を充分に知り、健康と社会の関係を理解し、医学に関する深い学識を基盤に、看護に必要な知識・技術・態度を修得し、将来の実践と研究に役立たせます。

そのため、専門の核心である看護学とともに、人文科学、社会科学、自然科学、外国語、健康科学、医学などを関連科目として学び、幅広い知識と教養、豊かな人間性、高い倫理観を身につけます。

とりわけ将来の社会環境の変化に柔軟に対応でき、常に新しいものを生み出す自己開発能力を育成するため、看護学を科学として追求していくことに教育の主眼が置かれています。

卒業後は、各医療施設、保健行政機関、企業健康部門さらに一般企業において看護学の知識を基に多様な活躍をしています。また大学院に進学して看護学や保健学の研究に取り組み、研究者や高度臨床家を目指すことが期待されています。2018年度から大学院での保健師・助産師教育が始まりました。また、2020年度から遺伝カウンセリングコースが始まりました。

本学・本専攻の特徴

- 我が国の看護系大学の中でも最も優れた先端的保健学・看護学教授陣が揃っています。
- 国家試験合格率はトップクラス、就職・進学ともに高いレベルのキャリア形成が可能な実力ある専攻です。
- 看護師の国家試験受験資格が得られるほか、選択により養護教諭一種免許が取得できます。
- 保健師、助産師の先進的な教育を大学院で行っており、公衆衛生看護学、助産学を牽引するリーダー的大学です。
- 従来の「看護」を打ち破る研究成果を続々と発表している活気のある面白い大学です。



4年間のスケジュール

1年～2年前期

- 新入生研修では、同級生、教員、先輩と親しくなれます。
- 外国語・化学・生物学・統計学などの一般教養を受講します。
- 2年前期は基礎看護技術の学内演習が始まります。



2年後期～3年前期

- 吹田キャンパスが学生生活の中心になります。
- 専門的な授業が始まり、短期間の臨地実習も始まります。
- 講義だけではなく主体的なグループ学習が行われます。



3年後期～4年前期

- 集中的な学内演習のあと、本格的な臨地実習が始まります。
- 臨地実習は、病院や老人保健施設、訪問看護ステーションなどで行います。
- 研究室の配属が決まり、特別研究(卒業研究)も始まります。



4年後期

- 卒業研究が中心になります。この間に就職試験や大学院の入学試験があります。
- 2月に看護師の国家試験があります。そして卒業研究の発表、卒業です。



基礎看護学

基礎看護学では、人の健康支援の基礎となる看護の概念や理論などの知識、看護実践の基盤となる技術、生活習慣の予防や多職種連携についての教育と研究を行っています。年代や疾病特性を限定せずに、多方面からの情報分析を通して、よりよいケアシステムのあり方、新しい看護技術の開発、質改善や人材育成支援に関する研究を進めています。より充実した看護ケアを提供する未来を見据えて、幅広い視点から人々の健康に貢献する看護の可能性を追求しています。

教員名・職名	石井豊恵(教授)	辻本朋美(助教)
	樺山 舞(教授)	木戸倫子(助教)
	大村優華(准教授)	



母性看護学・助産学

母性看護学・助産学領域では、ライフステージ各期の女性の健康課題、妊孕世代および次世代の健康確保のためのケアを探究するとともに、国内外の母子保健の向上に寄与する看護師、助産師の教育を行っています。また、女性がよりよい環境で子どもを産み育てるために必要な周産期医療の在り方、母子保健対策、男女共同参画社会に向けての政策の在り方・支援策にも取り組んでいます。

教員名・職名	遠藤誠之(教授)	堀口範奈(准教授)
	渡邊浩子(教授)	木内佳織(助教)
	白石三恵(教授)	寺澤瑛利子(助教)



小児看護学

小児看護学領域では、発達過程にある生前から青年、そして若年成人各期にある子どもと家族が、その人と家族らしさを社会との相互作用の中で守り育てて行くことへ寄与する看護を追究しています。健康増進から重い病気や障がいを抱える子までの、そして自宅から地域、三次医療機関等あらゆる場での、子どもと家族の心身と精神を支えていく全人・包括ケアの基礎を培います。また、多職種(看護ならびに他職種)との連携の中で、子どもと家族主体のともにある看護を実践・推進していくための基礎を培います。

教員名・職名	山崎あけみ(教授)	川原 妙(准教授)
	山本賢一(准教授)	小熊坂祐太(助教)



成人看護学(慢性期)

慢性疾患看護学に関する教育・研究を行っています。青年期、壮年期、向老期といった成人各期にある慢性疾患をもつ人とその家族への看護技術、セルフケア支援技術に関する研究、看護の質向上のための看護実践能力の育成やケアシステムの開発に関する研究を行っています。その中でも慢性疾患とともに生きてきたその人の文化的背景や経験を尊重し、過去からつながる今、そして、未来を支える看護を現場の看護師と協働して構築していくことを大事にしています。

教員名・職名	清水安子(教授)	高橋 慧(助教)
--------	----------	----------



精神保健看護学

精神保健看護学は、すべての人のこころの健康を支え維持することを探求する領域です。また、こころの病を持った人がより良い生き方を見出し、再び病を持つことなく社会で暮らし続けることを支援します。人々が持てる力を最大限発揮し、社会とのつながりの中で暮らすことを支えるために、看護職は看護の知識と技術を使って、多くのさまざまな職種や地域の人々と協力をします。精神保健看護分野におけるそのような実践家を育む教育、そしてその教育を支える研究を推進することで、社会へ貢献しようと取り組んでいます。

教員名・職名	武用百子(教授)	市川久美子(助教)
	加藤有花(助教)	



老年看護学

日本は2004年以降高齢化率世界一となり今後も高齢社会にどう向き合っていくかのトッパンナーとして世界的に期待されています。進学・就職・結婚・出産・育児・子の教育・子の独立・第2の人生…そして最期、このようなライフステージを経てきた人たちの生きざまをどのように支えていくかを考えていくのが老年看護学です。皆さんは、どのように生きたいですか?一緒に考えていきましょう。

教員名・職名	竹屋 泰(教授)	梶屋絵理子(助教)
	山川みやえ(准教授)	



地域・在宅看護学

地域・在宅看護学領域では、地域で暮らすすべてのライフステージ、すべての健康状態の人々が、自らの能力を最大限に発揮し、自立した生活を送ることができる地域社会の発展に寄与する教育・研究を行っています。個人・家族、集団の保健医療福祉について予防的観点から体系化し、さらに効果的な支援方法や施策化、地域包括ケアシステムの構築について探求します。公衆衛生看護、学校保健、産業保健、在宅看護のパイオニアとして国際的に活躍できる教育者・研究者・科学者の育成を目指しています。

教員名・職名	神出 計(教授)	小出恵子(准教授)
	小西かおる(教授)	田中美帆(助教)
	蔭山正子(教授)	小林慶吾(助教)



放射線技術科学専攻

医用物理学/医用工学



放射線技術・科学、医用画像学を極め未来医療を創造する

放射線技術科学とは

本専攻では医療の場で放射線を人体に照射し、取得した画像情報をもとに、診断・治療の指針を提供する医療技術科学を学ぶところです。本専攻には放射線（X線）のほかに、核医学、超音波や磁気、光を使った画像診断科学、画像医学、放射線腫瘍学、画像情報解析学、生理学、医用工学および放射線防護学など多種の放射線技術学において第一線で活躍中の研究者がそろっており、高齢化社会において求められるヒトにやさしい先端画像診断学・画像応用治療学をわかりやすく教授します。

修得科目と病院実習

1年次は総合大学としての特色を生かし、語学を含めた「共通教育科目」と物理、化学などの「専門基礎教育科目」を受講します。2年次からは、基礎医学と共に放射線科学の基礎を講義、演習、実習を通じて学びます。3年次前期では、「専門科目」を学び、医療における放射線技術の利用に関し学びます。また、3年次には診療放射線技師教育において重要な「病院実習」が始まります。大阪大学医学部附属病院等の最先端医療機器を使って、画像診断学、放射線治療学に関して約半年にわたり学びます。

特別（卒業）研究、就職活動および大学院進学

本専攻には様々な研究室があり、教授・准教授・助教が一体となって研究に邁進しています。4年次の学生は、希望に応じてこれらの研究室に分かれて配属され、特別研究を行います。各研究室において学生はX線、超音波、核医学、磁気、光（レーザー）等を利用した最先端の研究に参加し、研究開発の面白さと困難さを体験します。また、この研究成果をまとめ、4年次の秋に研究発表会にて発表します。

この特別研究と並行して就職活動を行い、さらに卒業直前に控えた診療放射線技師国家試験にむけて受験勉強に励みます。この一年は大変忙しいですが、学部4年間の中でも最も充実した時期といえます。また、多くの学生が大学院に進学し、研究を継続し、学会発表、論文執筆など研究者としてのスキルを学びます。

4年間のスケジュール

1年～2年前期

- 新入生歓迎会などのイベントがあります。
- 共通教育科目と専門基礎教育科目を他学部、他学科との学生と一緒に豊中キャンパスで学びます。



2年後期～3年前期

- 吹田キャンパスの保健学科学舎を中心として専門科目の講義と実習が行われます。
- 専門教育科目の講義が始まります。



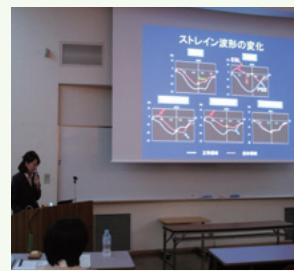
3年

- 大阪大学医学部附属病院等において、実際の臨床現場での実習が行われます。診療放射線技師や教員から指導を受けます。



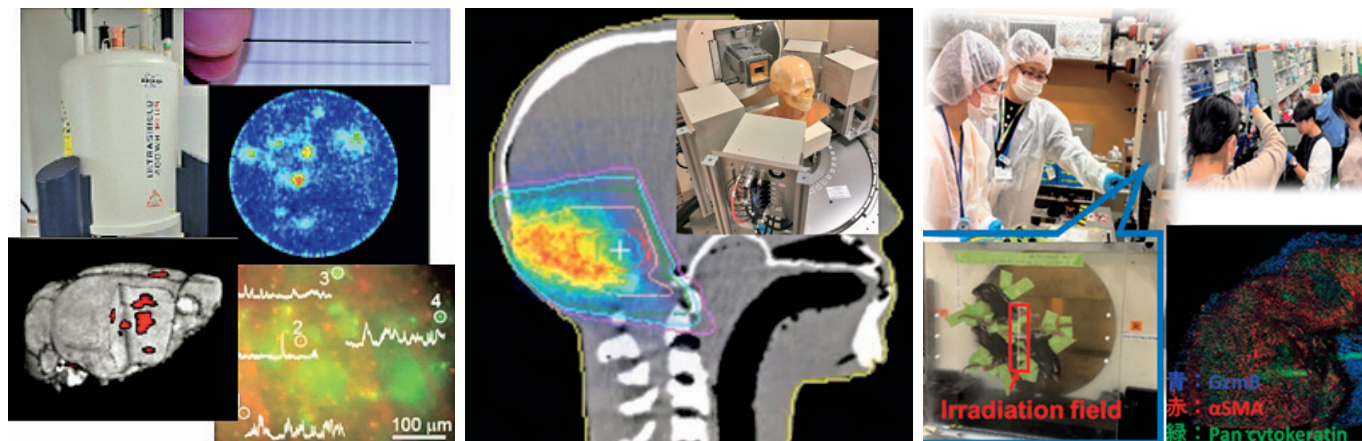
4年

- 卒業研究センターの生活です。このあいだに就職試験、大学院入試があります。卒業研究発表の後、2月後半には国家試験が実施されます。



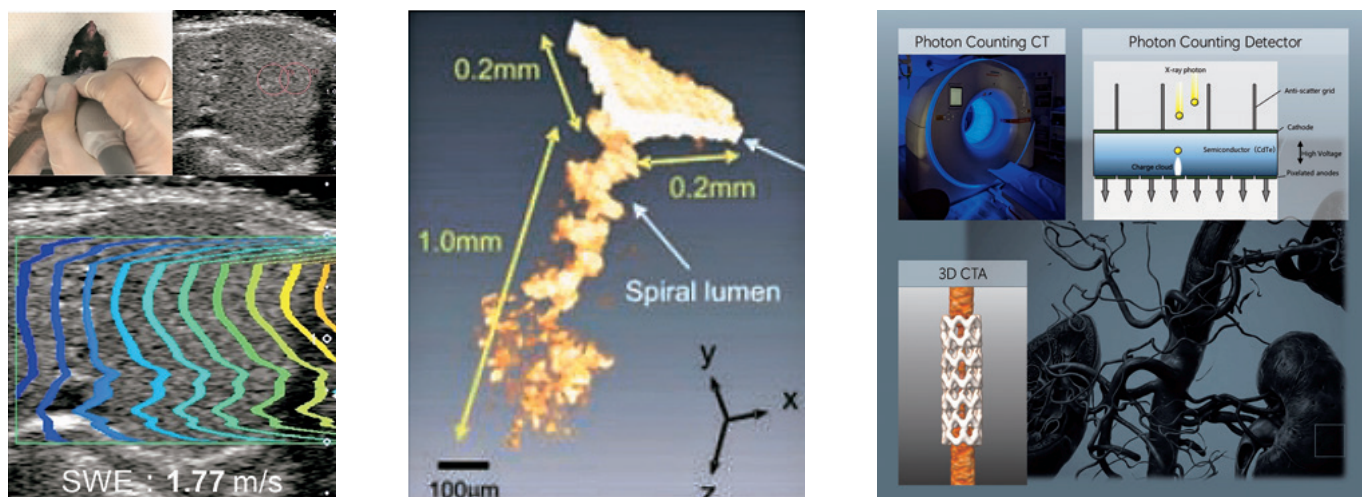
医用物理学

本領域は、国立大学法人としてはわが国で最も早く創設されました。その研究内容は、X線、超音波、放射性同位元素による医用画像の形成、分子イメージング、放射線治療、放射線の安全管理、医用情報学と広がっています。そして、その共通目標は、今後さらに医用物理学を発展させていくことであり、スタッフ全員が自負と気概に燃えて日夜研鑽を積んでいます。



医用工学

疾病の早期診断と治療には、従来の放射線技術・機器に加え、エレクトロニクスや情報科学の最先端技術を取り入れた新たな診断・治療システムの構築が必要です。本領域は、放射線以外にも核磁気共鳴、光学、画像情報解析学、医療システム学、放射線治療物理学などの分野で構成されており、新たな医用工学の学問体系の確立に日々取り組んでいます。



検査技術科学専攻

基礎生体情報学／病態生体情報学



生体情報を捕え診断や治療に役立てます

検査技術科学は新しい医療科学の担い手として登場し、歴史的にも若々しく、かつ発展性と将来性に富んだ分野です。検査技術科学の基本は物理的（電気磁気、超音波、核磁気共鳴）、化学的（血液生化学、免疫）、形態的（病理組織学、細胞診）、分子生物学的（DNA、RNAの分析）技術を駆使して人体からの情報を正確に受信し、これを分析して疾患発生の予知と予防、疾患の診断、治療法の効果判定、将来の状況の予測に役立てます。

疾患についての知識はもとより、病態情報の基礎、その正確性、精密性の保守並びに情報処理についての研究が重要です。

検査技術科学のカバーする分野はこんなに広く、学生各人の適性にに応じてその専門を選択することができます。またこの分野は現在非常な発展をみせているバイオサイエンスと重なっていることが特徴です。

検査技術科学を学ぶことにより以下のような将来への道が開けます

- 病院の検査部、検査センターに勤務し、検査を行うとともに、現場において新しい検査法の開発やデータの処理に取り組む。
- 製薬企業研究所において、疾患、検査法、実験動物を熟知した技術者として活躍する。
- 食品製造業等を含む健康関連産業領域における研究・開発を担う。
- 検査機器メーカー研究所で、新しい測定・診断機器を開発する技術者として活躍する。
- バイオサイエンスを実践する大学研究機関で活躍する。
- 高度先進医療機関や企業で治療用細胞製造を行う細胞エンジニアとして活躍する



4年間のスケジュール

1年～2年前期

- 英語・第2外国語(独・仏など)・物理・化学・数学などの一般教養の講義が行われます。
- 1年4月にはクラブのオリエンテーションがあり、保健学科にも体育会クラブやサークルに所属し、4年間続けて頑張る人もたくさんいます。
- 4月にはクラス初のイベントとして、新入生歓迎会があります。ここで初めて全員の名前を覚えます。



2年後期～3年

- 吹田キャンパスへ移動。1人暮らしの人は慎重に家を決めておくのがよいでしょう。実習が始まり、ようやく専門的な授業も実施されます、はじめての採血も…
- 解剖実習もあり、教科書の写真だけではなく、実際の目で確かめながらの講義が受けられます。
- 3年夏休み：大阪府下の関連病院(大阪国際がんセンター等)で臨床検査の実習を受け、現場の雰囲気を初めて味わいます。



4年

- 4年前期：各研究室に配属されます。さらに細かく専門分野に分かれて、1人1人半年間研究を行い、9月にはその研究成果を発表し、卒業論文としてまとめます。同時に阪大病院の病棟において臨床医学特別実習が行われます。実際に患者さんに接して検査の重要性をより深く学びます(特別研究カリキュラムは今後変更予定)。
- 4年後期：阪大病院の臨床検査部でおよそ3ヶ月にわたり実習が行われます。学校の講義とは異なった様々な事柄を習得できます。4年間の総まとめの卒業試験を経て、臨床検査技師国家試験に臨みます。



基礎生体情報学

21世紀の臨床検査学は病気の診断や治療だけでなく、予測することを可能にするでしょう。そのためには分子生物学・分子微生物学、バイオメディシン、脳科学など自然科学領域の最先端技術を駆使する必要があります。細胞が生命情報を発し感受するメカニズムについて研究し、新しい科学を創造するのが基礎生体情報学です。

病態生体情報学

病態生体情報学は、病気に関係する異常を、個体レベル、臓器レベル、細胞レベル、分子レベル、更には遺伝子レベルで解析することによって、病因を解明し、病気を正確に診断し、新しい治療技術を開発するために重要な生体情報に関する最先端の研究を行っているところです。

1 生体情報を捕らえ、診断・治療に役立てる学問

本専攻では人が発する無尽蔵の信号の中から病気の診断と治療に役立つ情報を正確に採取する理論と技術についての研究・教育が行われています。近年検査技術は自動化学分析、DNA(遺伝子)診断、超音波分析、MRI(核磁気共鳴)分析など、その発展は目を見張るばかりです。このような技術革新を可能にし、さらに新しい検査技術を生み出す源は、実は自然科学そのものの中にあります。

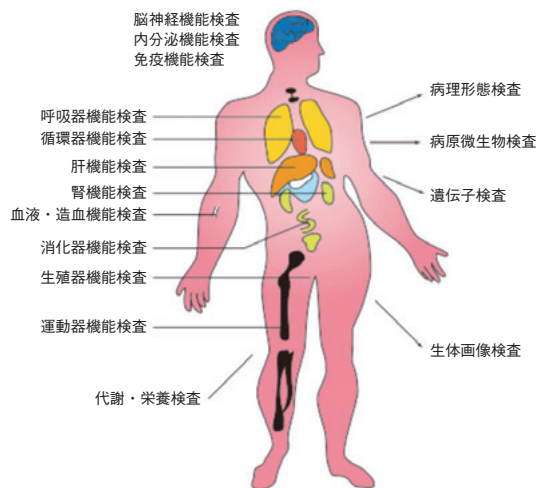
2 医学と臨床検査学を学び、生体情報発信機構を研究

生体から情報を得るにはまず生体そのものを理解することが必要です。さらにそれを診断に生かすためには病気についても熟知しておく必要があります。そこで2年次からの専門教育では生体のはたらきとしくみ、病気のメカニズムを徹底的に学習します。また新しい検査法を習得し、さらにそれを開発するうえで必要な物理・化学から分子生物学までの広い知的基盤の教育も並行して行われています。3年次になると実際の臨床検査の原理と方法について履修し、さらに個々の臨床検査データの意義を理解するために臨床医学や検査診断法についても学びます。4年次では大阪大学医学部附属病院臨床検査部と診療科(病棟、外来)において実習を行います。ここで最新の検査技術の実際を習得し、臨床の現場で臨床検査がどのように活用されているかを学びます。さらに4年次の前期には、検査技術科学の基盤をなす生体内情報発信機構を深く研究するために、各研究室の教員の指導のもとにそれぞれの課題を定めて特別研究に従事し、先端的研究の一翼を担うこととなります。この研究は将来の教育者・研究者への道を方向づける契機にもなるでしょう。そのため、密度の濃いカリキュラムですが、それに向かって行くファイトのあふれる人材の参加を大いに期待しています。

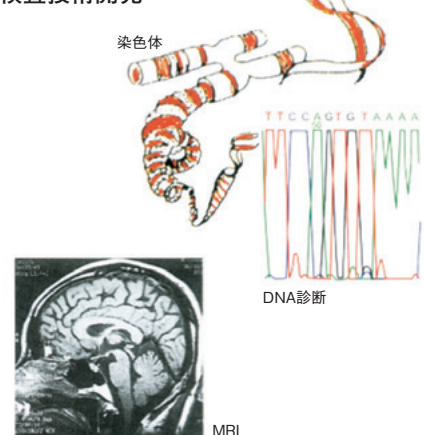
3 今後需要が増大する幅広い活躍分野

臨床検査技師の資格を取得した卒業生は医療機関で力を発揮することができます。臨床検査技師の資格は比較的新しく制度化されたもので、この資格を取得すれば直接患者に接触する検査や、採血などの医療行為を行うことができます。さらに最近では実施できる検査業務が徐々に拡大されており、従来の臨床検査に加えて核磁気共鳴画像(MRI)診断や超音波(エコー)診断および眼底写真撮影なども実施できるようになっています。卒業生はまた医療・バイオサイエンス関係の企業や研究所で活躍することもできます。さらに大学院に進学して生体情報学や先端医療技術の専門家、教育・研究者を目指すことができます。

生体情報分析



先端検査技術開発



統合保健看護科学分野 多彩・独創的な大学院

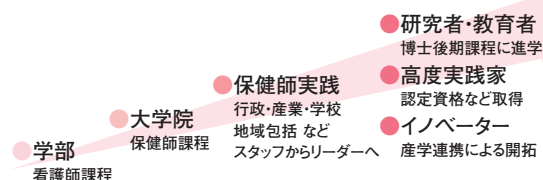
大学院保健学専攻では、ここだけでしか学べない多彩・独創的なテーマと研究マインドに溢れる教員が、みなさんを待っています。博士前期課程(2年)では、保健・医療・福祉のさまざまな課題を患者の立場や社会・自然環境・文化等から理解するとともに、様々な視点から問題解決をデザインできる力を養います。博士後期課程(3年)では、独創的な研究をデザインし遂行する能力、研究組織に参加し牽引できる力を養います。本分野の大学院生は、臨床経験の有無を問わず、工学部など医療系以外の学部出身や外国籍など多様性に富んでいます。学修では、図書館をはじめ世界に誇る大阪大学の教育資源が活用でき、研究に必要な医学部・医学系研究科をはじめ他学部・他研究科等から提供される科目が履修できます。保健師・助産師教育コースやがん看護の専門家コースもあります。研究論文の作成では、研究遂行力、発表能力の鍛錬だけでなく、科学者であるとともに保健医療人にとって必要な、高い倫理性と強い責任感、課題遂行力を養います。

大学院修了後は、医療界のみならず産業界・行政からも、保健医療福祉分野において幅広い教養を持ち、柔軟な吸収力とやさしさを持つ医療人として、国際的な貢献も期待され、活躍しています。

学部教育	大学院教育：統合保健看護科学分野	教授名：研究室名	(2026年5月1日現在)
■基礎看護学 ■地域・在宅看護学	総合ヘルス プロモーション科学	石井豊恵:看護管理学、樺山 舞:包括看護科学、 藤山正子*:公衆衛生看護学、神出 計*:ヘルスプロモーション・システム科学、 小西かおる*:地域ヘルスケアシステム科学 *保健師教育コース兼任	
■小児看護学 ■母性看護学 ■助産学	生命育成看護科学	遠藤誠之***:母性胎児科学、白石三恵**:助産学・リプロダクティブヘルス、 渡邊浩子**:ウイメンズヘルス科学、 山崎あけみ***:小児・家族看護学 **:助産師教育コース兼任 ***:遺伝カウンセリングコース兼任	
■成人看護学 ■老年看護学 ■精神保健看護学	看護実践開発科学	清水安子:慢性疾患看護学、ナースプラクティショナー教育プログラム、 上野高義:周手術期管理学、臨床工学技士指導者育成プログラム、竹屋 泰:老年看護学、 武用百子:精神保健看護学、ナースプラクティショナー教育プログラム、 荒尾晴恵***:急性期・緩和ケア学、高度がん看護専門看護師コース ***:遺伝カウンセリングコース兼任	
連携大学院領域		がん統計・インフォマティクス:国立がん研究センター	等

保健師教育コース

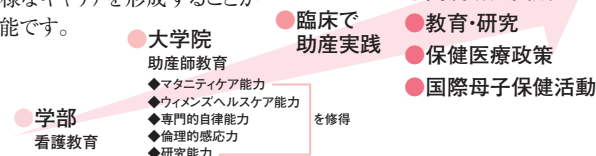
保健師は、より健康なコミュニティ、より安全・安心な社会を構築することを目的に、社会的公正を規範として、あらゆるライフステージの、あらゆる健康レベルの人々と、人々を取り巻くさまざまな環境に働きかけます。学部の4年間の学びを土台にして、大学院において集団や組織、コミュニティを対象とする公衆衛生看護技術や、研究能力とともに修得します。修了後は、行政機関や産業保健、学校保健、地域包括ケアなど多様な現場で活躍することができます。さらに、研究者・教育者あるいは高度実践家、起業家などの選択肢を開拓することもできます。人々の健康、社会の安寧を支えるスペシャリストに、ぜひあなたもチャレンジしてください。



助産師教育コース

助産師は、妊娠・分娩・育児期を中心に、女性のライフステージに応じた健康課題や、性と生殖に関する健康課題に対して支援を行う専門職です。助産師教育コースでは、助産学・母子保健学を広く深く探究し、母子と家族の健康増進に寄与する助産実践者のトップリーダーを育成します。さらに、リサーチマインドを備え、助産学・母子保健学の発展に寄与し、グローバルに活躍する教育者・研究者の育成を目指しています。

修了後は、アドバンス助産師として臨床で助産を究める道をはじめ、大学院博士後期課程へ進学し、教育者・研究者として活躍する道、保健医療政策の立案や推進に携わる道、国際母子保健活動に従事する道など、多様なキャリアを形成することが可能です。



高度がん看護専門看護師コース

高度がん看護専門看護師コースは、がん看護専門看護師の資格取得にむけた日本看護系大学協議会の認定した教育コースとなっています。がん看護専門看護師は、がん診療連携拠点病院や地域において、実践、研究、教育、相談、調整、倫理調整といった6つの役割を担う高度ながん看護の実践者となることが期待されています。また、臨床現場でがん看護専門看護師として継続的にスキルアップできるだけでなく、大学院博士後期課程への進学によって、研究や教育能力の向上を図り、さらに教育・研究の現場で活躍するなどキャリア形成の幅も広がりをみせています。



遺伝カウンセリングコース

現代医療になくはない臨床遺伝に中心に対応することができ、臨床遺伝専門医やその他の医療職のメンバーと協力しながら、真に必要な医療専門職の育成を実現することを目標に設置しました。

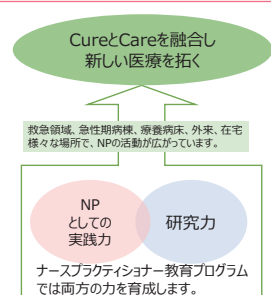
統合保健看護科学と医療検査技術科学、両分野の教員が対応し、講義は、医学系研究科、人間科学研究科、連合小児発達学研究科からも協力を得ており、実習は医学部附属病院遺伝子診療部で行います。



ナースプラクティショナー教育プログラム

少子高齢化が進む中、医療ニーズも変化し、看護師に期待される役割は拡大・多様化しており、ケアとケアを融合できる高度な看護実践力をもつナースプラクティショナー(NP)が活躍し始めています。

本分野でも2022年度よりナースプラクティショナー教育プログラムを開設し、NPとしての実践力と大阪大学だからその研究力を身につけられる教育内容を提供し、これからの新しい医療を担う人材を育成します。



医療画像技術科学分野 教員名・専門・研究テーマ

医用物理学

名 前	専 門	研究テーマ
福地 一樹 (教授)	■核医学 ■分子イメージング	核医学画像分析による病態診断と脳、心臓の生化学情報を診断・治療に応用する研究を行っています。
小山内 実 (教授)	■神経生理学 ■脳機能イメージング	光学イメージングやMRIに加えて、電気生理学、シミュレーションなども駆使し、細胞レベルから個体レベルまでのマルチスケール・マルチモーダル研究を展開し、脳機能の解明を目指しています。また、イメージング法の開発や、イメージング装置の開発も行っています。
西尾 禎治 (教授)	■医学物理学 ■粒子線治療物理学	放射線治療分野、特に陽子線治療や重粒子線治療の高精度化に関連する医学物理学研究を幅広く推進しています。また、先進的な研究活動を通じた教育を実践することで、高度な研究開発能力を備えた医学物理士の育成を目指しています。
沼崎 穂高 (准教授)	■医療情報学 ■放射線腫瘍学	放射線に関わる情報を取り扱った研究を行っています。放射線診断分野では単純X線画像、CT画像の画像解析、放射線治療分野では全国的な放射線治療症例情報の収集と解析を行っています。
高橋 豊 (教授)	■放射線治療生物学 ■放射線治療技術学	放射線の効きにくいがんや、他の臓器へ転移しやすい難治性腫瘍に対し、放射線による免疫賦活効果に着目した研究を行っています。光子線だけでなく、重粒子線やホウ素中性子捕捉療法も利用し、新たな治療戦略の策定を目指します。また、幅広かつ医学物理学との融合による新しい放射線治療生物学を展開します。
皆巳 和賢 (准教授)	■粒子線腫瘍学 ■放射線生体影響学	放射線照射後の生体組織反応をDNA損傷のみならず、老化や細胞運動、代謝など様々な方向から理解するための研究を行っています。電子線、γ線、X線、陽子線、炭素イオン線など放射線の線質が生体に与える影響の違いや、超高線量率で照射された細胞・組織への影響を研究しています。

医用工学

名 前	専 門	研究テーマ
大西 裕満 (教授)	■放射線医学 ■臨床画像医学	当研究室では、最新のCT装置やMRI装置の診断能の評価を行っていくとともに、造影CTにおける細胞外容積分画やMRIにおける脂肪定量、R2*値、MRエラストグラフィーによる肝線維化評価などの定量データをもとにした病態解析や疾患発症のリスク分類に関する研究を行っています。
近江 雅人 (教授)	■医用光学 ■生体計測学	光を用いた高分解能断層イメージング手法(OCT)を開発し、生体の構造や機能をミクロに計測・分析する研究を行っています。これをもとに臨床現場で利用できる新たな光診断法の開発を目指しています。
齋藤 茂芳 (准教授)	■先端画像技術学 ■磁気共鳴医学	前臨床用超高磁場7T-MRI、前臨床用永久磁石1.5T-MRI、マイクロCTなどを用いて、診療放射線技術学や磁気共鳴医学における先端的な画像診断技術の開発を行い、脳・肺・心臓・肝臓などの疾患評価、その病態解明を目指します。
鎌田 佳宏 (教授)	■超音波医学 ■消化器病学	消化器疾患の診断のための非侵襲的診断法(noninvasive test: NIT)開発のための基礎的・臨床的研究を推進しています。NITのツールとして超音波検査装置、血液バイオマーカーを用いて新たな消化器疾患NIT・治療法開発を目指しています。
木村 敦臣 (准教授)	■磁気共鳴 ■同位体動態学	磁気共鳴イメージング(MRI)および磁気共鳴分光法(MRS)の基本手法の開発として、高感度化・高機能化を目指し、MRI/MRSシステムの開発・改良を行っています。また、その応用として、診断薬や治療薬の開発に有効な生体評価システムの構築および機能評価のための新規指標の提案に取り組んでいます。
石田 隆行 (教授)	■医用画像工学 ■診療放射線技術学	高度な画像診断を支援するための新しい画像処理法や定量解析法を開発しています。また、医用画像の画質評価に関する研究も行っています。

医療検査技術科学分野 教員名・専門・研究テーマ

基礎生体情報学

名 前	専 門	研究テーマ
岡本 成史 (教授)	■病原微生物学 ■マイクロバイオーム科学	病原微生物や常在細菌叢の構成細菌による感染症、全身疾患の発症機序について分子レベルでの研究をすすめています。
福原 淳範 (教授)	■糖尿病 ■内分泌代謝学	脂肪細胞が分泌するアディポサイトカインおよび各種生理活性物質の機能解析を通じて、メタボリックシンドロームの分子基盤の解明に取り組んでいます。これらの知見を基に、動脈硬化性疾患の発症機構を明らかにし、予防・診断・治療へとつながる新規戦略の創出を目指しています。
高橋 正紀 (教授)	■神経生理学 ■臨床神経学	電気生理、生体磁気など生理学的手法を中心に遺伝学的手法なども用いて、神経・筋疾患、特に希少難治性疾患について基礎から臨床に至る幅広い研究を行っています。
山本 浩靖 (准教授)	■糖尿病 ■内分泌代謝学	世界的にも増加する糖尿病、脂質異常症等のメタボ関連疾患とその合併症の病態解明、診断法・治療法の開発を目指し、分子生物学的・細胞生物学的な研究を行っています。
久保田 智哉 (准教授)	■神経内科学 ■生物物理学	神経や筋に発現する電位依存性イオンチャネルの機能を、生物物理学的手法により解析し、遺伝性神経筋疾患の病態について、基礎と臨床の両方の電気生理学を通じた解明を目指しています。

病態生体情報学

名 前	専 門	研究テーマ
山本 浩文 (教授)	■がんの診断・治療 ■消化器外科学	当研究室では、がんの形態と遺伝子についての研究を行っています。診断・治療への応用が目標です。
尾路 祐介 (教授)	■腫瘍学 ■腫瘍免疫学	白血病や様々ながんで働く「がん遺伝子WT1」の機能の研究、およびWT1を標的とした癌免疫療法や分子標的治療の開発を行っています。
辻川 元一 (教授)	■再生発生医学 ■分子遺伝学	私たちの教室では再生医学の基礎的な研究と実際の臨床への応用を行っています。また、ゼブラフィッシュを使って、分子遺伝学的手法で神経病態研究も行っています。
渡邊 幹夫 (教授)	■臨床検査診断学 ■エビゲノム検査学	疾患の診断や予後予測のための新しい臨床検査法を開発するとともに、疾患の病因・病態や臨床検査値に及ぼす遺伝要因および環境要因の解析を行っています。
佐藤 茂 (准教授)	■分子遺伝学 ■眼科学	遺伝性網膜変性症の遺伝子診断や新規原因遺伝子の探索を行っており、遺伝子治療を含む新規治療法の開発を目指しています。
近藤 純平 (准教授)	■消化器病学 ■分子生物学	患者由来のがん細胞を3次元培養する技術を駆使し、癌の多様性解明～個別化医療への応用、また診断技術や治療法の開発などを目指しています。

各研究室のHPは、<https://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/jpn/departments/> からアクセスできます。
上記教員名等は2026年5月1日現在のものです。



卒業生の声

看護学専攻

大阪大学ナースプラクティショナー (NP) 1期生として

石橋 夏実 (2017年度学部卒業、2023年度博士前期課程修了)
社会医療法人愛仁会高槻病院 (2026年5月現在)

私は大阪大学を卒業後、大阪大学医学部附属病院の高度救命救急センターで看護師として経験を積み、大学院のNP教育プログラムへ進学しました。NPの資格を取得し、現在は総合内科に所属しています。勤務先では、米国で確立されているSNF (Skilled Nursing Facility) に準じた診療体制のもと、NPとして従事しています。医師が急性期診療を担い、その後の慢性疾患管理や適切なケアへの移行を中心に行っています。看護師としての強みを活かし、患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、CureとCareの双方を提供できることに大きなやりがいを感じています。大阪大学では、実践的な知識だけでなく、臨床研究に関する知識も学ぶことができました。現在はNPとして日々の実践に取り組みとともに、臨床研究にも携わりながら、より質の高い医療の提供を目指しています。



総合内科部長筒泉先生 (右) と保健学科の先輩でもある猪熊NP (左) と共に

放射線技術科学専攻

大学院生活で広がった学びとつながり

田中 爽大 (2021年度学部卒業、2023年度博士前期課程修了)
山形大学 重粒子線医学講座 助教 (2026年5月現在) 大阪大学大学院医学系研究科博士後期課程在学中 (2026年5月現在)

私は大学院修士課程で粒子線治療について学び、研究活動を通して医学物理学や放射線治療に関する知識を深めてきました。現在は山形大学の助教として、臨床・研究・教育に携わっています。大学院で培った知識や経験は現在の仕事に活かされており、大きなやりがいを感じています。研究室では多くの先輩・同期・後輩と出会い、支え合いながら充実した時間を過ごしました。大学院では専門知識だけでなく、人とのつながりも得られることが大きな魅力だと思います。これから進学を考えている皆さんにも、ぜひ多くのことに挑戦してほしいです。



(写真左：山形大学 重粒子線医学講座 助教の先輩 宮坂友佑也さん 中：田中爽大 右 山形大学 重粒子線医学講座 教授 東日本重粒子線センター センター長：岩井岳夫先生)

検査技術科学専攻

臨床検査学の未来を担う1人になろう

横山 雄起 (2005年度学部卒業、2011年度博士後期課程修了)
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 (2022年5月現在)

私は卒業後、病院で臨床検査技師として働くことを考えていましたが、学部4年次の特別研究配属で研究の面白さに気付き、そのまま大学院博士後期課程まで進学しました。その後、米国への海外留学も経験することができました。現在は学生時代を過ごした分子病理学研究室の助教として研究活動とともに病理実習などを担当し、後輩の成長を身近に感じながら充実した日々を送っています。本学は高い大学院進学率と病院、企業、教育研究機関など多様性に富んだ進路が特徴です。皆さんにもぜひ各分野で活躍する臨床検査学の未来を担う1人になってもらいたいと願っています。

“裏方”にとどまらない臨床検査のスペシャリストに

中山 小太郎純友 (2010年度学部卒業、2018年度博士後期課程修了)
大阪大学医学部附属病院 輸血部 (2023年5月現在)

臨床検査技師は、病気の診断・治療・予防に必要な不可欠な臨床検査を担う医療職である一方、裏方のイメージを持たれている方も多いと思います。ですが、実際の現場では、患者さんの病態把握のため、検査の専門家として、検査データの解釈を臨床医に相談されることも多く、また最近ではベッドサイドでの業務も求められています。

さらに、日常検査だけでなく、学会にも積極的に参加し情報収集に努めるとともに、新しい検査法や治療法の研究にも日夜取り組んでいます。

これら臨床に必要なエビデンスを基盤にした考え方や、研究のノウハウなどを身に付けられる環境が大阪大学には整っています。皆さんも検査のスペシャリストとして共に活躍しましょう。

地域から子どもたちの健康を守る養護教諭を目指して

川崎 滯(2022年度学部卒業)
滋賀県立守山高等学校(2026年5月現在)

私は現在、高等学校で養護教諭として働いています。大学卒業後は大学病院小児科で2年間看護師として勤務していましたが、養護教諭になるという夢を叶えるべく、大学4年生ぶりに教員採用試験に再挑戦し、無事合格することができました。健康診断や救急処置、保健指導、健康相談、不登校対応などを通じて、たくさんの生徒たちと関わりながら、日々保健室で奮闘しています。子ども達のセルフメディケーションを育み、自尊心・自己肯定感を高められるような関わりができる養護教諭を目指して、今後も努力を重ねていきたいと思っています。



住民の生活を支える保健師に

佐伯 実南(2020年度学部卒業、2022年度博士前期課程修了)
大阪府(2026年5月現在)

私は大学院博士前期課程を卒業後、行政保健師として保健所で働いています。感染症保健を経験した後、現在は母子保健・難病保健を担当し、地域で暮らす疾患や障がいを持つ方の支援をしています。他職種と一緒に仕事をする機会も多いため、幅広い視点を学びながら、住民の生活を支えられるよう奮闘しています。昨年は業務の成果を学会で発表する機会があり、大学院で培った研究の視点を仕事にも活かすことができ嬉しかったです。保健師のジェネラリストになれるよう、今後も色々な分野の業務にチャレンジしていきたいです。



様々な経験が今の力に

山形 起生(2023年度学部卒業)
大阪急性期・総合医療センター医療技術部放射線部門(2026年5月現在)

私は大阪大学を卒業後、大阪急性期・総合医療センターで診療放射線技師として勤務しています。現在は、レントゲン撮影(一般撮影)やCT検査など、診断領域の業務を主に担当しています。急性期の患者様の検査や当直業務など責任の大きい場面も多くありますが、その分やりがいを感じながら日々研鑽を重ねています。

研究室時代には、実験用のファントムを自作し、静岡県内の病院での研究も行いました。また、学会発表を経験する機会にも恵まれました。さらに、指導教員の先生のご尽力があり、卒業論文が海外の学術誌に掲載されるという貴重な経験もすることができました。

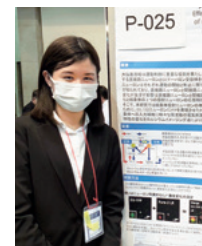
大阪大学で得た多くの経験や、先生方・友人との出会いは、現在の自分を支える大きな財産となっています。



大学院進学で広がる未来

藤江 春花(2022年度学部卒業、2024年博士前期課程修了)
金融機関勤務(2026年5月現在)

私は診療放射線技師として病院で働きたいと思い大阪大学医学部保健学科に入学しましたが、学部4年生の時に配属された研究室でも少し研究を続けたいと思い大学院進学を決意しました。脳機能を専門とする研究室を選択し、自分で実験した結果を考察して学会で発表したり論文を読んで知見を広げたりを繰り返したことで、大学院卒業時には学部卒業時からの大きな成長を感じました。現在は金融機関でマーケティングの仕事をしています。研究内容と業務に直接的な関係性はありませんが、研究室生活で培った思考力や分析力が活かしていると感じています。診療放射線技師だけではなく企業やアカデミアも目指せる選択肢の多さも阪大保健学科の魅力だと思います。

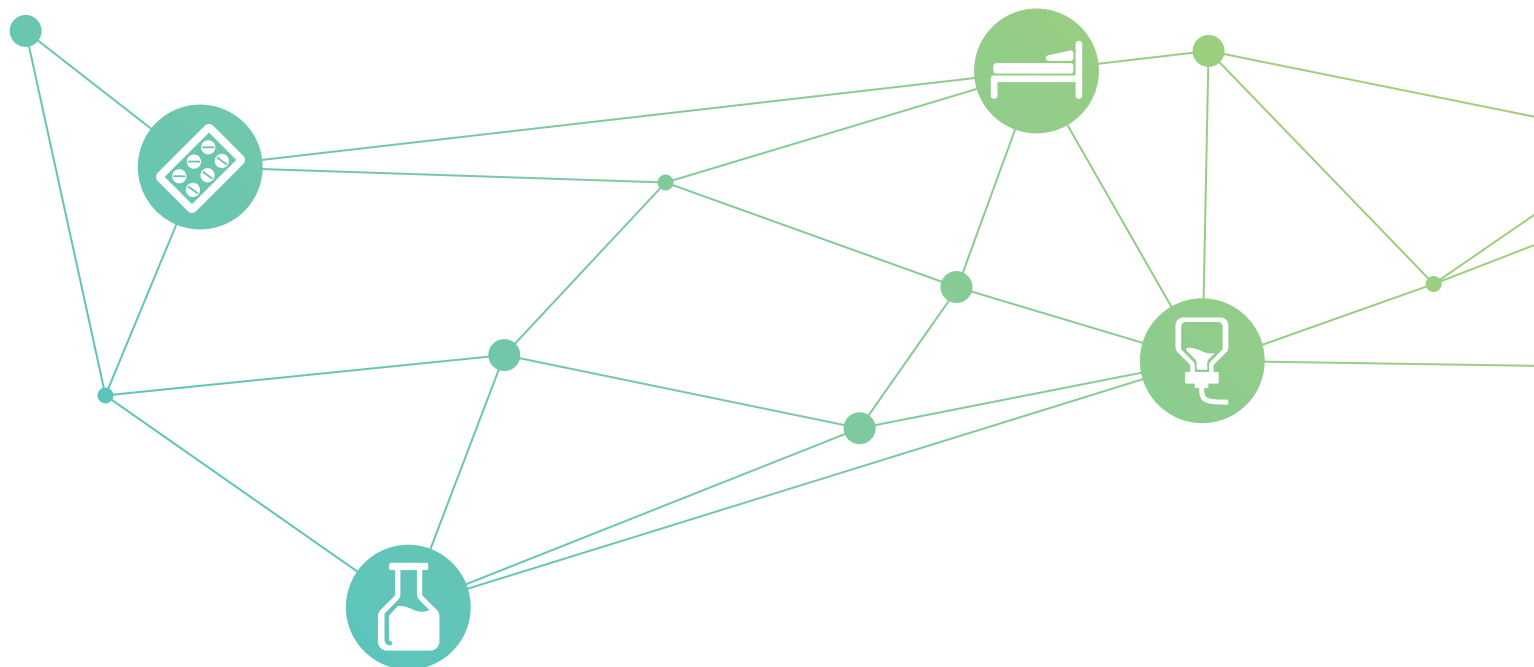


予防・診断・治療を支える臨床検査

安田 知世(2017年度学部卒業、2019年度博士前期課程修了)
sysmex株式会社(2023年6月現在)

2020年に医学部保健学科分子病理学教室を卒業後、sysmex株式会社に就職し、医療機器の開発業務に従事しています。大学の授業を通して、病気の早期発見・予防や治療の選択を支える臨床検査は医療の中で大きな役割を担うこと学びました。卒業後は新しい検査技術を医療の現場に届ける仕事がしたいと思い現進路を選びました。お客さまとして臨床検査技師や医師の方々をはじめとした医療従事者と接する機会が多く、現場が求める臨床検査を理解する際に、大学で得た臨床医学・臨床検査の知識や病院実習での経験が非常に役立っています。





大阪大学医学部保健学科
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7

<https://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/jpn/index.html>



2026年7月作成